

タイトル： 低コストで生産性向上を実現する～すぐに取り組める業務改善～

キーワード ※3つ記入。

生産性向上	法人名	社会福祉法人彩世会
ICT	施設種別	特養
無料・低額	施設名	特別養護老人ホームコスモス苑

研究者 (取組に関わった方のお名前5名まで)	氏名	職種	備考
	① 新井 元規	企画・連携室長 (ソーシャルワーカー)	
	②		
	③		
	④		
	⑤		

施設の概要

※ここに記載した内容のうち、発表内容に直接重要な関係を持たない事項については、本資料をもって発表の際の説明から省略してください。

設置主体	社会福祉法人彩世会	経営主体	社会福祉法人彩世会
開設年月日	平成15年10月1日	所在市町村	札幌市
市町村人口	1,958,199 人	65歳以上人口 (高齢化率)	557,174 人 (高齢化率 28.5%)
利用者定員数	100 人	利用者平均年齢	90 歳
職員数	60 人	職員数内訳	介護職 36名 看護職 5名
併設施設・事業	通所介護、居宅介護支援事業所		
施設のサービスの概要	令和6年7月に40床増床し、現在は定員100名で全室個室、ユニット型特養として運営している。看取り介護に積極的に取り組んでおり、苑内葬儀にも対応。法人理念は「その人らしさを尊重し、安心して暮らせる施設を目指す」。		

発表の概要

<p>①取り組んだ課題 令和6年度の介護報酬改定で「生産性向上を推進する為の委員会設置」が義務付けられ、介護現場の業務改善はこれまで以上に急務である。</p> <p>当施設は看取り介護の実績とノウハウ（苑内葬儀、末期癌に罹患した方の看取り対応）はあるがICTの活用は遅れており、相談員やケアマネは有料の介護ソフトを活用しているものの、介護職員や看護師は日々の記録を手書きしている状態であった。</p> <p>これまでも介護職員から記録の電子化等の要望があったが、費用面等の問題を理由に導入を先送りしていた。今回の改定をきっかけに、施設全体で本気で取り組まなければ施設運営に多大な影響を及ぼすと判断し、室長（ソーシャルワーカー）から施設長に「生産性向上に取り組む必要性」について進言。以下、取り組みを開始する。</p> <p>②具体的な取り組み 令和6年度介護報酬改定に伴う「生産性向上委員会設置の義務化」に伴い、今年4月に事業所内で「生産性向上委員会」を立ち上げた。当職がプロジェクトリーダーとなり、以下取り決める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・目的（ゴール） 人材育成とチームケアの質の向上、そして情報共有の効率化を生産性向上に取り組む意義とし、介護サービスの質の向上と人材定着・確保を目指す。 ・スケジュール：月1回の定例会議 ・メンバー：施設長、事務課長、介護課長、医務室、相談課、各階CW、室長 <p>委員会設立後、全職員を対象にGoogleフォームを活用したアンケートを実施、様々な意見が寄せられた。特に記録の電子化、情報共有の迅速化に対する意見が多く、早急に業務改善が必要と判断しICTツールの導入を決定。</p> <p>記録の電子化については、既に導入済みの有料介護ソフトのアップデート等での対応を検討したが、想定以上にコストが高額であることが判明し、施設長から中止するよう指示あり。無料の介護ソフトの導入検討に切り替え、模索した結果「Care Viewer」の導入を決定。</p> <p>情報共有の迅速化については、LINEの使いやすさはそのままに各機能をビジネスに特化させた「LINE WORKS」の導入を決定（無料）。</p>	<p>③活動の成果と評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・5月上旬に各部署端末（iPhone、iPad）にLINE WORKSアプリインストール、ID設定。 ・事務所での朝礼内容（当日のスケジュール等）を、相談員等がLINE WORKSで各部署の端末に毎朝8:50迄に発信。それまで全部参加の全体朝礼を平日朝8:30に医務室で実施していたが、それを廃止し現場職員の業務量軽減を図った。 ・施設全体の緊急発信等もLINE WORKSでリアルタイムに発信、各部署間の連絡や伝言、必要時の物品依頼等もLINE WORKSに切り替えコスト削減。 <p>【CareViewer活用の成果と評価】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月中旬に担当者来苑し職員向け説明会実施、入居者と職員IDを設定し7月から各部署で試用開始。7月中旬時点で特に大きな問題なく、8月に完全電子化予定。 ⇒いずれも無料で導入できた為、コストもリスクも少なく迅速に活用することができた。 <p>④今後の課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・有効なICTツールは、もはや「知っている」から「活用する」時代にシフトしている。生産性向上は介護事業所の安定経営に対するリスクマネジメントでもあり、職員の定着と利用者の利益につながる。 ・真の生産性向上の実現には、ICTツールの「個（職員）」での活用と「全（事業所）」での活用、両方が求められる。 ・いかに一人でも多くの職員がICTツールを有効活用し、自主的に業務改善を図るか。「個（職員）」の活用促進を促し、「全（事業所）」の質を向上させることが、プロジェクトリーダー（ソーシャルワーカー）の責務と考える。 <p>⑤参考資料など 『リスク 神々への反逆』ピーター・L・バーンスタイン 著、日本経済新聞出版社</p>
--	---

※”応募用紙”とともにメールにて【7月12日（金）】までにご提出ください→ roushiky@dosyakyo.or.jp まで。